

'07 August 公明 KOMEI 8

特集

「定説」を疑う

二大政党制	中村 宏	三角合併	北村 慶
メデイア戦略	岩崎 正洋	道徳教育	加藤 和哉
日本の治安	河合 幹雄		

日中国交正常化35周年と公明党	神崎 武法
大量破壊兵器の拡散阻止に何かが必要か	森山 隆
「メデイアの公共性」とは何か	林 香里

緩和ケアは看取りの医療ではない	中島 孝
-----------------	------

特 集 「定説」を疑う

公明 8月号 目次

地方議会は二大政党化しているか	中村 宏	2
三角合併解禁、外資は脅威か	北村 慶	6
小泉メデイア戦略は成功したのか	岩崎正洋	12
道徳は「教科」にできるか	加藤和哉	18
日本の治安は悪化しているのか	河合幹雄	24
日中国交正常化35周年と公明党	神崎武法	30
緩和ケアは看取りの医療ではない	中島 孝	34
注目される個人の生活の質評価法SEIGol-DW	編集部	42

政治家改革の視点	編集部	45
政治家・政党をその人格、姿勢で選べ	林 香里	49
「メデイアの公共性」とは何か	森山 隆	56
大量破壊兵器の拡散阻止に何かが必要か	編集部	62
07年参院選 多彩な実績が証明 公明党の政策実現力	編集部	62
地方議員リポート〈19〉 福岡県前原市議 藤沢 実	笹栗純夫	66
震災乗り越え「安全・安心の街」に		
経済ウエーブ〈20〉	尾林賢治	70
業績絶好調のアツパルに学ぶ		
役立つホームページ	編集部	73
(かん情報サービス)		
世界の風	空野翔太	74
(イギリス「テロ対策を急ぐ理由」)		
シニアの社会参加探訪〈8〉	瀬沼亮彰	76
書評	編集部	78
売れ筋ぶっくす	編集部	79

読者の広場・編集後記	編集部	80
------------	-----	----

地方議員 レポート

第19回

福岡県前原市議
笹栗 純夫

震災乗り越え「安全・安心の街」に

あつたものの適用されませんでした。そこで、福岡県会の新開昌彦県議に被害の詳細を報告。さつそく3月26日に現地を調査し、マシヨンの住民の皆様への訴えや要望を聞き、その足で災害対策本部が設置してある前原市役所に直行。罹災証明の発行が困難なことに悩む住民の状況を説明し、被害状況が明らかかな場所に関しては、手続きの簡略化・迅速化を働きかけ、即刻可能となりました。

4月2日には、神崎代表（当時）が最も被害が大きかった玄海島などを視察。被災者の激励を行った後、福岡県庁を訪れ、麻生知事に新聞県議が「災害救助法が自治体にとっての適応で、今回は、福岡市だけでなくっている。被害は、前原市や糸島郡にも出ている。平等な対応を取ってほしい」と訴えまし。これに対して知事は「おっしゃるのとおりです。平等な対応をすべきだと思います」と明言。その結果、4月11日

前原市は、九州一の大都市である福岡市の西隣りに位置し、人口も30年間で倍増して現在では6万8800人。第一次産業である農業が基幹産業です。

「魏志倭人伝」に「伊都国」の名で記述があり、出土した「大鏡」（国宝）などからは、この地域が大陸と日本の海の玄関口として繁栄していたことが証明されています。また、現在は九州大学の統合移転が開始して2年目を迎

え、大学を「知の拠点」として、産学に助成するとともに、30万円を超える上の住宅修理事費用として30万円を上限に支給することになりました。また、一部損壊の住宅の補修には、借り入れに対し利子補給（県と市が50％ずつ負担）が決まりました。

相談者に納得して やうつために

私は、昨年11月の統一外選挙で支援者の真心からのご支援をいただき、新たに2期目の議員活動をしております。1期目は大きな戸惑いの連続でした。市民の皆様から受ける相談内容は、生活全般にわたっています。しかし、行政全般に精通することは不可能だからです。そこで、私なりの打開策として、公明新聞をはじめ一般新聞などの記事を切り抜き、分野毎にデータ

官が一体となった「九州大学学術研究都市」づくりを進めています。隣接する志摩町、二丈町との糸島一市二町合

福岡西方沖地震で 災害救助法並みの支援

平成17年3月20日に発生した福岡西方沖地震では、被害が甚大であった福岡市に災害救助法が適用されました。平成17年3月20日に発生した福岡西方沖地震では、被害が甚大であった福岡市に災害救助法が適用されました。強化し、事前調査をすることにしまし

ベース化しました。そして、市民相談や各種提案を受けた時には、先輩議員や行政に聞く前に、自分なりに深く勉強し、事前調査をすることにしまし。こうした中で、「議員活動の最重要課題は、相談をされた方に心底納得していたることである。実現を阻害している原因は何か。どうすれば解決の糸口が見出せるか。その一手をどう打つかである」と痛感。行政に課題を丸投げするのではなく、一緒に解決策を模索する方法を取るよう心掛けました。その結果、1期4年間で80を超える実績を積みました。その他、日本オストミール協会の会報や糸島手話の会の会報「にし」などでも議員活動が紹介されました。

市民の声を行政と協働で実現

初めての選挙期間中に、ある支持者の方から「自分はオストメイト（人工の身障者トイレをオストメイト対応の内12カ所に設置。19年度も農業公園内方針も決定され、平成18年度までに市員も立ち会ってトイレ改修方法を現場で検討し、実現しました。前原市が随者トイレを設置する場合はオストメイト対応の多目的トイレにする、との

多目的トイレに改修する予算が計上さ

れました。

また、初当選後に聴覚障害者クルー

プの方から相談を受けました。その内

容は「列車事故などの緊急時に、駅の

放送が聞こえないため状況が把握でき

ない。駅員さんも忙しく、筆談に応じ

てもらえず余裕はない。とるべき行動が

分らない。事故の状況を電光掲示板

で知らせてもらえば安心できる」との

ことでした。そこで、市執行部に現状

を訴え粘り強く交渉しました。その結

果、平成16年3月に「1F券前原駅の

北口と南口に「電光掲示板」が設置さ

れました。列車の運行や災害情報が一

目でわかると同時に、市のイベントや

観光案内もできるようになり、市民の

皆様から非常に喜ばれています。

本市は平成18年4月に「前原市安心

安全まもづくり推進条例」が施行され

ました。その条例案が上程された平成

18年3月議会において「市民の安心・

安全のまちづくりを推進する旗振り役

として、また、安心・安全の拠り所と

活路線制度を活用して路線維持をして

きました。17年度までは、国県補助の特別指定生

活路線制度を活用して路線維持をして

きました。18年度から市単独の補助

事業となったため、生活路線に関係の

ある三校区（小学校）の住民の方に、

一世帯あたり1000円のバスチャッ

トを購入していただいていた。路線バスの維

持ができました。私は本年3月の予算

特別委員会で質問に立ち、市長に「生

活路線バス運行に市も補助している

が、関係住民の皆様の大きかつ

たと思う。市長も生活路線バスに乗っ

ていただき、市民の目線で路線バス維

持について考えていただきたい。市長

が乗車されるとき、私にもお声を掛け

てください。グリーンツーリズムバス

などの企画が生まれるかもしれません

ん」と提案しました。これが今年の5

月8日に実現。7路線のうち3路線

に、市長と一緒に乗車し路線バス維持

に向け車中検討会を行いました。ま

だ、結論が出ていませんが、必ず活路

が見出せるものだと確信しています。

ネットワーク政党の強み 生かし住民要望を実現

このほか、前述の新議員との連携
プレーで、点滅信号機をフル規格信号



松本市長と路線バス乗車（左が筆者）

安全のまちづくりを推進する旗振り役

として、また、安心・安全の拠り所と

活路線制度を活用して路線維持をして

きました。17年度までは、国県補助の特別指定生

活路線制度を活用して路線維持をして

きました。18年度から市単独の補助

事業となったため、生活路線に関係の

ある三校区（小学校）の住民の方に、

一世帯あたり1000円のバスチャッ

トを購入していただいていた。路線バスの維

持ができました。私は本年3月の予算

特別委員会で質問に立ち、市長に「生

活路線バス運行に市も補助している

が、関係住民の皆様の大きかつ

たと思う。市長も生活路線バスに乗っ

ていただき、市民の目線で路線バス維

持について考えていただきたい。市長

が乗車されるとき、私にもお声を掛け

てください。グリーンツーリズムバス

などの企画が生まれるかもしれません

ん」と提案しました。これが今年の5

月8日に実現。7路線のうち3路線

に、市長と一緒に乗車し路線バス維持

に向け車中検討会を行いました。ま

だ、結論が出ていませんが、必ず活路

が見出せるものだと確信しています。

機へ1カ所変更、信号機新設が2カ所

実現しました。これらは危険を感じて

いた地元住民らの要望を受け、前原市

が地元警察署に設置要望を出していた

ものです。しかし、なかなか実現しま

せんでした。残念なことに、平成17年

6月14日の午後、幼稚園児を乗せたス

クルバスと営業車が交差点内で衝突

する事故が発生しました。営業車の運

転手はレスキュー隊員が工作機械を使

つて救出。幸いにも、スクールバスに

乗車していた園児や教師に怪我はあり

ませんでした。私はその日に事故の詳

細を新聞議員に報告し、翌日には新開

議員が県公安委員会に緊急申し入れを

しました。その結果、平成18年3月11

日新設された補助信号機を含め、フル

規格の信号機が供用開始となりまし

た。

また、信号機設置に向け、初当選直

後から市へ働きかけた県営有田団地前

の交差点五差路の交差点があります。市

17年度までは、国県補助の特別指定生

活路線制度を活用して路線維持をして

きました。18年度から市単独の補助

事業となったため、生活路線に関係の

ある三校区（小学校）の住民の方に、

一世帯あたり1000円のバスチャッ

トを購入していただいていた。路線バスの維

持ができました。私は本年3月の予算

特別委員会で質問に立ち、市長に「生

活路線バス運行に市も補助している

が、関係住民の皆様の大きかつ

たと思う。市長も生活路線バスに乗っ

ていただき、市民の目線で路線バス維

持について考えていただきたい。市長

が乗車されるとき、私にもお声を掛け

てください。グリーンツーリズムバス

などの企画が生まれるかもしれません

ん」と提案しました。これが今年の5

月8日に実現。7路線のうち3路線

に、市長と一緒に乗車し路線バス維持

に向け車中検討会を行いました。ま

だ、結論が出ていませんが、必ず活路

が見出せるものだと確信しています。

から地元警察署に要望したところ、信

号機の設置できる環境を整えるように

との要望がありました。それを受け、

平成15年事業として約500万円をか

けて、交差点付近の整備をしました。

しかし、信号機設置の動きはありませ

ん。そこで、新聞議員に前原市の取り

組み状況の詳細を報告。これもすぐに

県公安委員会に申し入れを行っていた

いただきました。要望を受けてから4年後

の平成19年3月末、県営有田団地前

の交差点五差路に信号機の設置が完了し

ました。横の3連式が7基、縦の3連式

が3基、歩行者専用が7基設置され、

どの方向からも的確に信号がわかるよ

うになり、近隣の方からは「長年の夢

でした。これで歩行者も車の方も安心

して通行することができます。」等の

喜びの声をいただいております。

今後も現場第一主義を貫き、生活者

の目線に立った施策を提案し続けて行

きたいと思っています。